

第101回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成30年1月～3月期

平成30年1月～3月期の業況判断指数（日銀短観3月）は、1月以降の円高や原材料価格の上昇等を背景に景況感の改善基調が一服し、景気拡大の持続に陰りが現れた。大企業・製造業では8四半期ぶり（2年ぶり）に悪化、大企業・非製造業も6四半期ぶり（1年半ぶり）に悪化となった。

こうしたなか、トラック運送業では運賃・料金水準は回復基調で推移したものの、労働力不足や燃料価格上昇等によるコスト増加の影響をより大きく受けたことから、営業利益及び経常損益は悪化した。その結果、景況感の判断指標は▲3.0となり前回（2.2）から5.2ポイント悪化した。

なお、今後の見通しは、労働力不足や燃料価格上昇等が来期も継続して影響し、経常損益は一段と悪化することが見込まれるため、景況感の判断指標は今回から4.3ポイント悪化し、▲7.3となる見込みである。

平成30年5月11日

公益社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成30年1月～3月期）の状況

① 概況

業界の景況感は、「好転」とした事業者は24.0%（前回26.2%）、「悪化」とした事業者は25.1%（前回22.6%）で、判断指標は▲3.0となり、前回（2.2）から5.2ポイント悪化となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量が「減少」した事業者は23.3%、「増加」とする事業者が27.9%で、判断指標は3.1となり、前回（12.0）から8.9ポイント悪化した。営業収入（売上高）は「減少」とする事業者が22.4%、「増加」とする事業者が32.0%で、判断指標は8.6となり、前回（13.2）から4.6ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が32.0%、「増加」とする事業者が23.0%で、判断指標は▲11.7となり、前回（▲11.5）から0.2ポイント悪化した。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が33.3%、「増加」とする事業者が29.2%で、判断指標は▲12.5となり、前回（▲39.3）より26.8ポイント改善した。営業収入（売上高）は「減少」とする事業者が41.6%、「増加」とする事業者が29.2%で、判断指標は▲20.8となり、前回（▲6.9）よりも13.9ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が58.3%、「増加」とする事業者が16.7%で、判断指標は▲54.2となり、前回（▲24.1）よりも30.1ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物（以下「宅配以外貨物」という。）では、輸送数量は「減少」とする事業者が20.0%、「増加」とする事業者が38.0%で、判断指標は16.0となり、前回（22.2）から6.2ポイント悪化した。営業収入（売上高）は「減少」とする事業者が16.0%、「増加」とする事業者が46.0%で、判断指標は30.0となり、前回（39.7）から9.7ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が26.0%、「増加」とする事業者が36.0%で、判断指標は12.0となり、前回（14.3）から2.3ポイント悪化した。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は一般貨物12.2（前回12.8）と0.6ポイント悪化、宅配貨物は41.7（前回82.8）と41.1ポイント悪化、宅配以外貨物は54.0（前回52.4）から1.6ポイント改善となった。

⑤ 実働率等

実働率は1.7（前回11.6）と9.9ポイント悪化、実車率は▲0.7（前回9.3）と10.0ポイント悪化し、前回と比較して輸送効率が悪化した。

採用状況は▲7.5（前回▲12.8）と5.3ポイント上昇、採用状況が好転したことから、雇用状況（労働力の過不足）は91.2（前回100.7）と9.5ポイント低下し、不足感が弱まった。所定外労働時間は▲7.2（前回1.2）と8.4ポイント低下、所定外労働時間は減少傾向となった。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は5.7（前回9.3）と3.6ポイント低下し、貨物の再委託は減少傾向となった。

一般貨物、宅配、宅配以外貨物の営業利益の悪化を背景に、経常損益は▲11.1（前回▲6.4）と4.7ポイント悪化、経常損益の水準は落ち込みを見せた。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者規模別にみると、大規模事業者は10.6（前回13.0）と2.4ポイント悪化、中規模事業者は1.3（前回6.0）と4.7ポイント悪化、小規模事業者は▲16.4（前回▲8.6）と7.8ポイント悪化した。

一般貨物の景況感を取扱い品目別にみると、消費関連貨物は▲17.3（前回▲1.0）と16.3ポイント悪化、建設関連貨物は2.9（前回2.4）と0.5ポイント改善、機械関連貨物は20.9（前回▲3.8）と24.7ポイント改善、その他貨物は▲3.0（前回0.5）と3.5ポイント悪化した。

一般貨物の景況感を地域別にみると、北海道、北陸信越、中部、近畿、中国、四国は水準を上げたが、東北、関東、九州は水準を下げた。

2. 今後（平成30年4月～6月期）の見通し

① 概況

業界の景況感の今後の見通しは、▲7.3（今回▲3.0）と4.3ポイント悪化する見込みである。

② 一般貨物

一般貨物では、運賃・料金水準が19.8（今回12.2）と7.6ポイント改善するものの、輸送数量は0.3（今回3.1）と2.8ポイント悪化することから、営業収入（売上高）は▲1.2（今回8.6）と9.8ポイント悪化するため、営業利益は▲15.9（今回▲11.7）と4.2ポイント悪化の見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量が▲33.3（今回▲12.5）と20.8ポイント悪化するものの、運賃・料金水準が58.3（今回41.7）と16.6ポイント改善することから、営業収入（売上高）は▲16.7（今回▲20.8）と4.1ポイント改善、営業利益は▲20.8（今回▲54.2）と33.4ポイント改善の見込みである。

宅配以外貨物では、輸送数量が14.0（今回16.0）と2.0ポイント悪化するものの、運賃・料金水準が58.0（今回54.0）と4.0ポイント改善することから、営業収入（売上高）は32.0（今回30.0）と2.0ポイント改善、営業利益は22.0（今回12.0）と10.0ポイント改善の見込みである。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準の今後の見通しは、一般貨物では7.6ポイント改善（今後19.8）、宅配貨物は16.6ポイント改善（今後58.3）、宅配以外貨物は4.0ポイント改善（今後58.0）する見込みである。

⑤ 実働率等

実働率は▲0.3（今回1.7）と2.0ポイント悪化、実車率は▲3.3（今回▲0.7）と2.6ポイント悪化するなど輸送効率悪化の見込みである。

採用状況は▲9.0（今回▲7.5）と1.5ポイント悪化することから、雇用状況（労働力の不足感）は100.8（今回91.2）と9.6ポイント上昇し、人材不足感が強まる見込みである。

所定外労働時間は▲11.5（今回▲7.2）と4.3ポイント減少する見込みであり、貨物の再委託は5.0（今回5.7）と0.7ポイント減少する見込みである。

経常損益は、労働力不足や燃料価格上昇等の影響から、▲14.6（今回▲11.1）と3.5ポイント悪化し、経常損益水準は落ち込む見込みである。

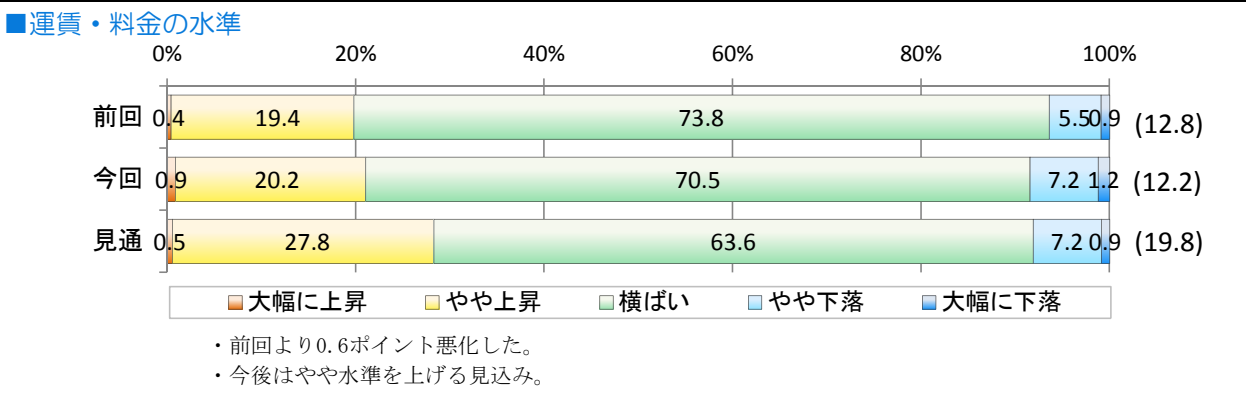
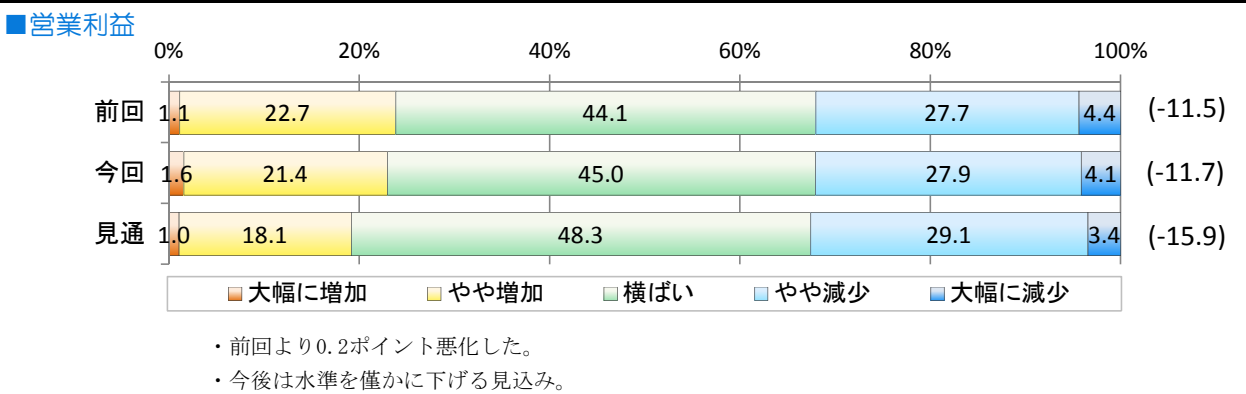
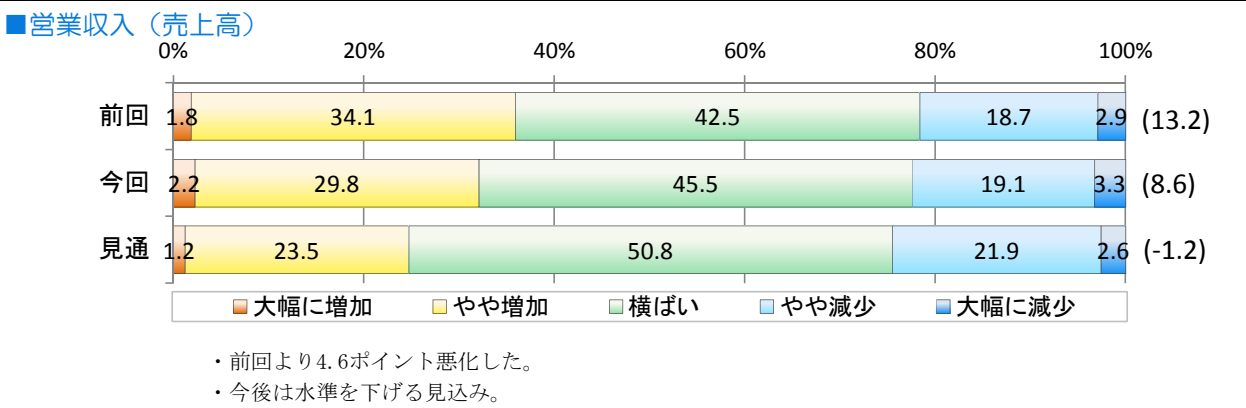
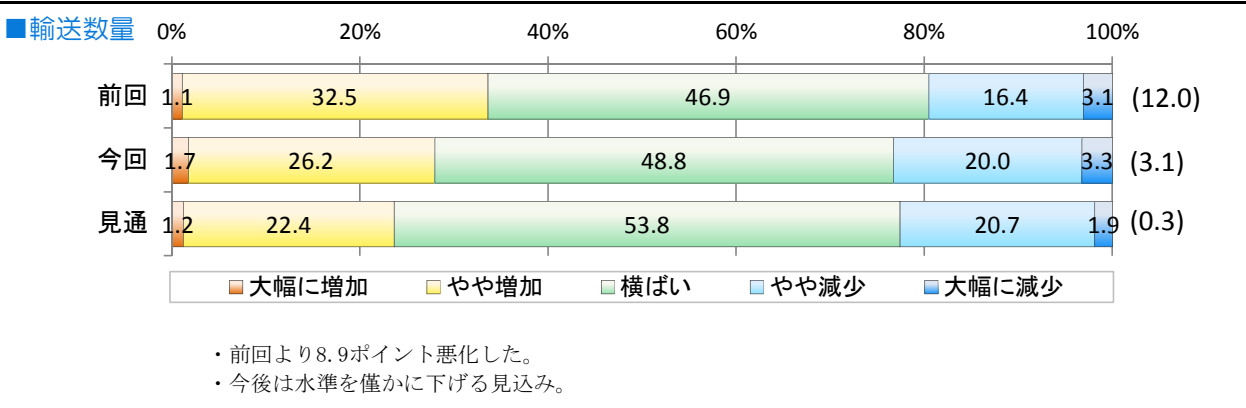
⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

事業者規模別にみると、大規模事業者は6.4（今回10.6）と4.2ポイント悪化、中規模事業者は▲2.2（今回1.3）と3.5ポイント悪化、小規模事業者は▲22.1（今回▲16.4）と5.7ポイント悪化と、事業規模を問わず水準を下げる見込みである。

一般貨物の景況感を取扱品目別にみると、消費関連貨物は▲12.1（今回▲17.3）、建設関連貨物は▲14.7（今回2.9）、機械関連貨物は11.9（今回20.9）、その他貨物は▲8.1（今回▲3.0）と、消費関連貨物以外で、水準を下げる見込みである。

一般貨物の景況感を地域別にみると、関東、北陸信越、近畿、四国は水準を上げ、北海道、東北、中部、中国、九州は水準を下げる見込みである。

3. 一般貨物の概況



【調査の概要】

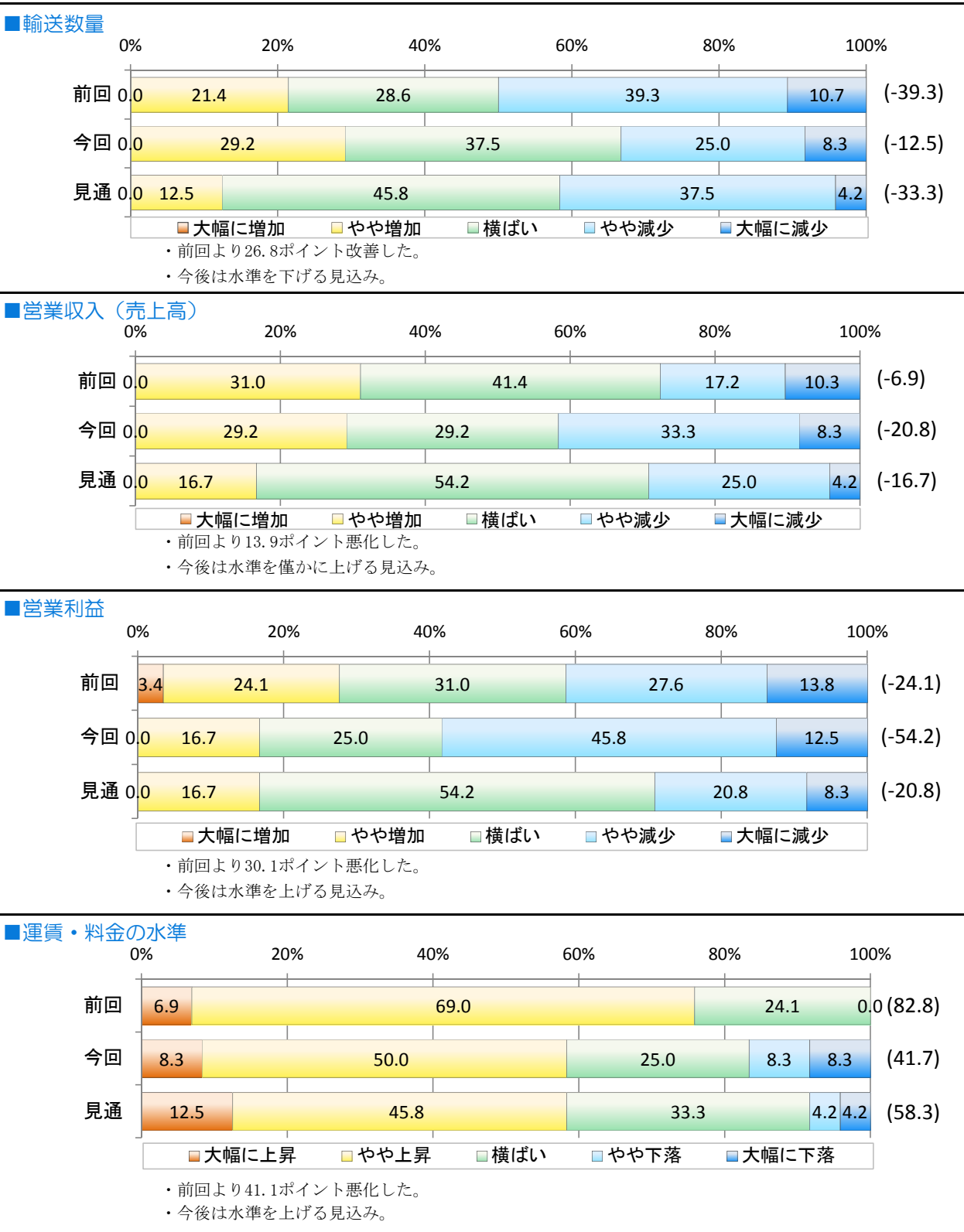
平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第101回調査は、平成30年4月1日に、モニターに対して調査開始、平成30年4月30日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
59	580	601

※一部回答事業者の重複あり

4. 特積貨物の概況

① 宅配貨物



(注1) 各グラフの上段は前回(H29.10月～12月期)の状況、中段は今回(H30.1月～3月期)の状況、下段は今後(H30.4月～6月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。

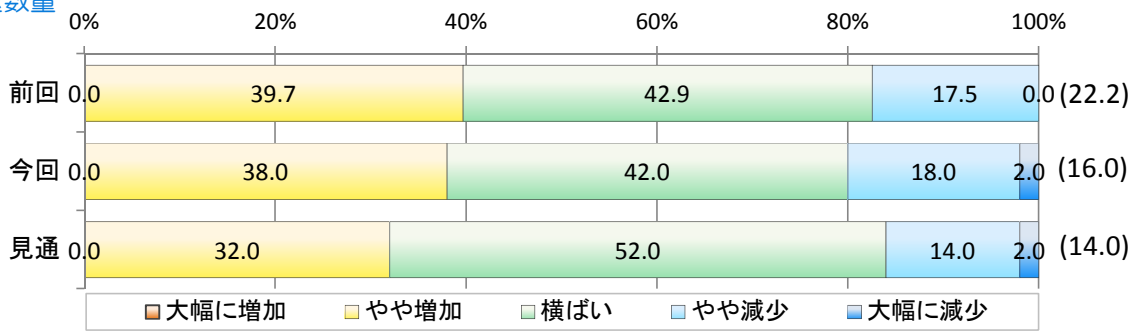
(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A(設問Aの回答者数) = a1+a2+a3+a4+a5 (設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

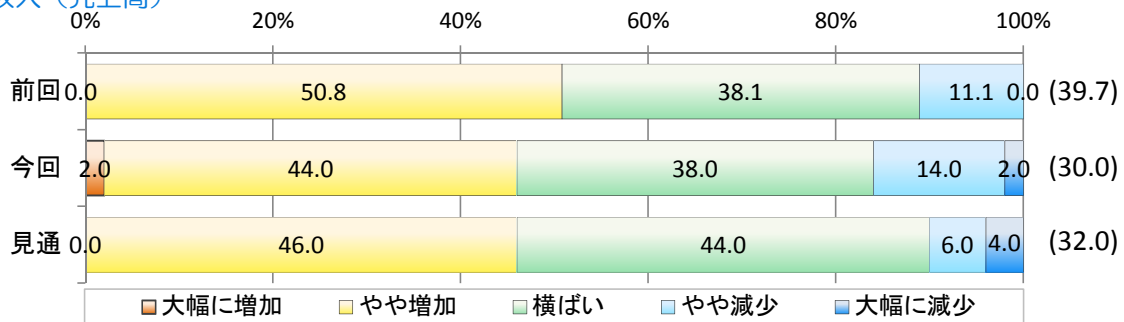
② 宅配以外の特積貨物

■ 輸送数量



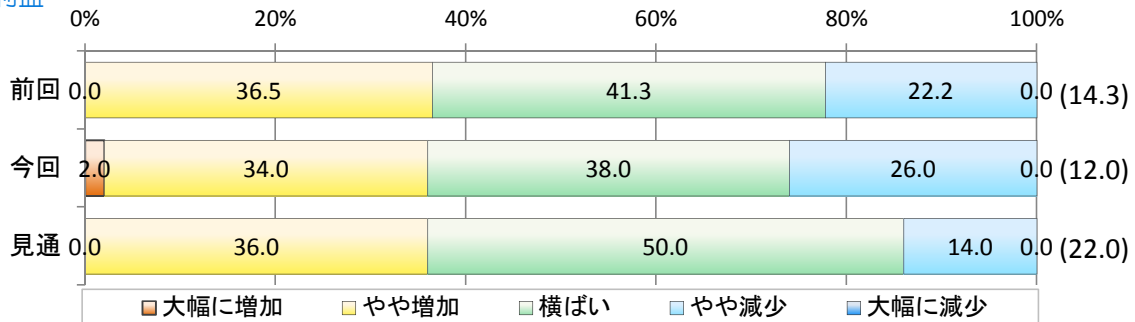
- ・ 前回より6.2ポイント悪化した。
- ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■ 営業収入 (売上高)



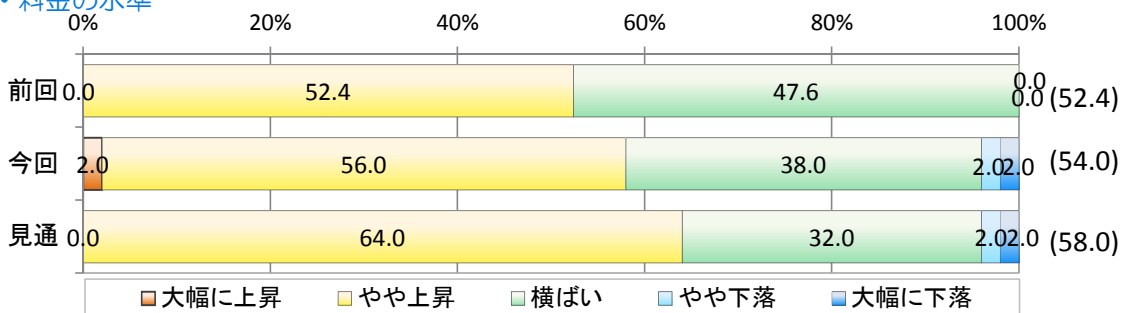
- ・ 前回より9.7ポイント悪化した。
- ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■ 営業利益



- ・ 前回より2.3ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準を上げる見込み。

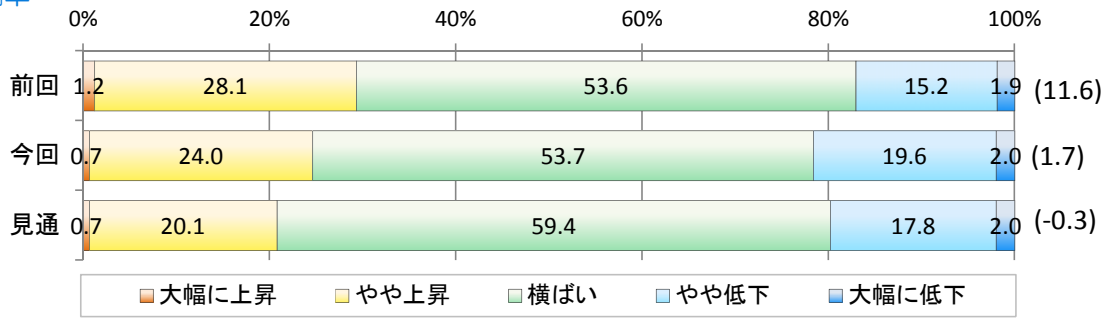
■ 運賃・料金の水準



- ・ 前回より1.6ポイント改善した。
- ・ 今後は水準を僅かに上げる見込み。

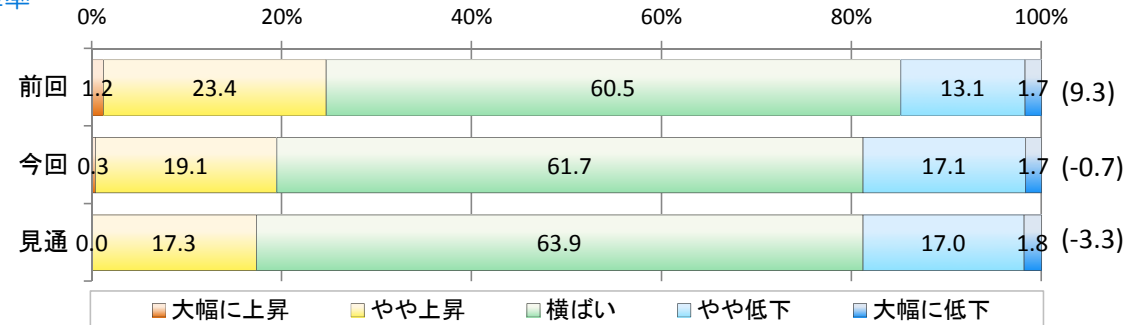
5. 共通の概況

■実働率



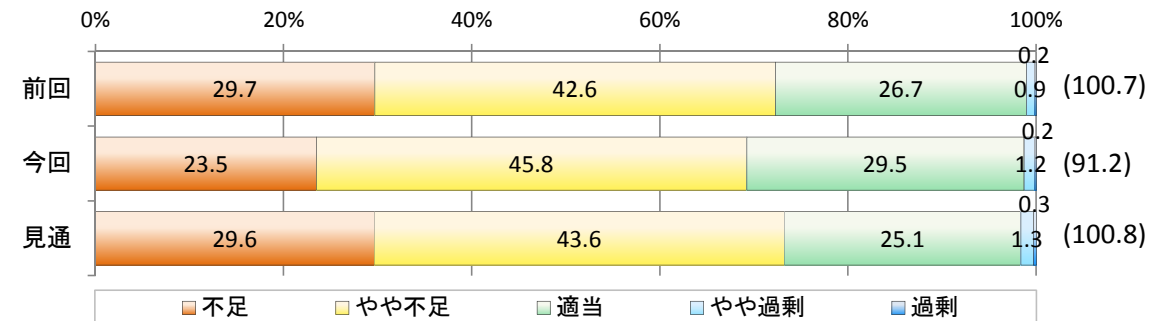
- ・前回より9.9ポイント悪化した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■実車率



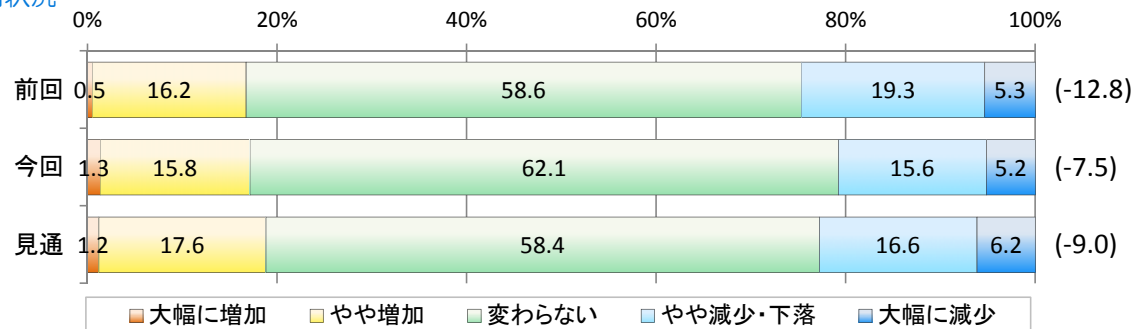
- ・前回より10.0ポイント悪化した。
- ・今後は水準を僅かに下げる見込み。

■雇用状況（労働力の過不足）^(注4)



- ・前回より9.5ポイント低下した（不足感が弱くなった）。
- ・今後は水準を上げる見込み。

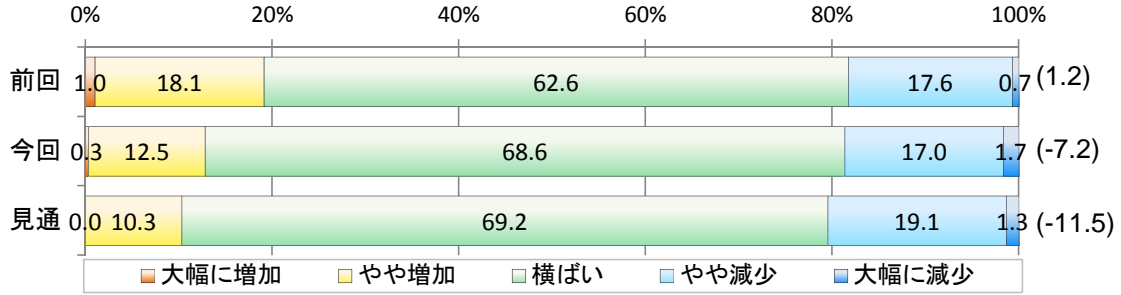
■採用状況



- ・前回より5.3ポイント上昇した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

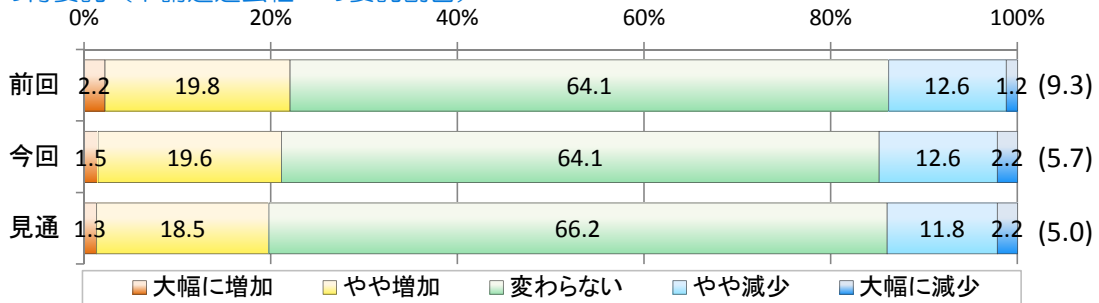
(注4)雇用状況については、上段は前回(H29.10月～12月期)の状況、中段は今回(H30.1月～3月期)の状況、下段は今後(H30.4月～6月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

■ 所定外労働時間



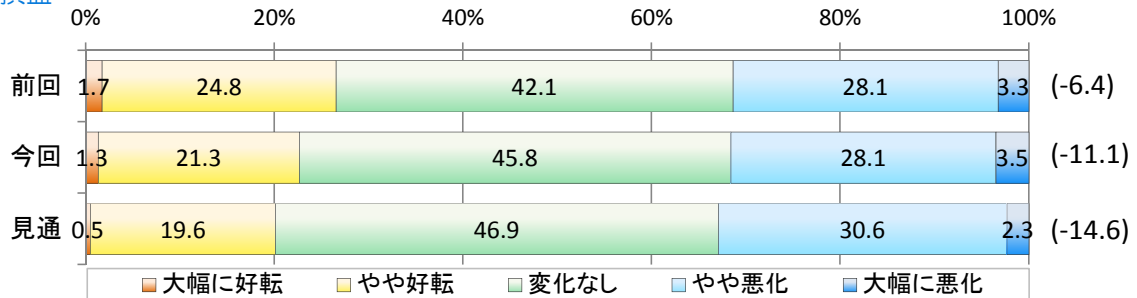
- ・ 前回より8.4ポイント減少した。
- ・ 今後は水準を僅かに下げる見込み。

■ 貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



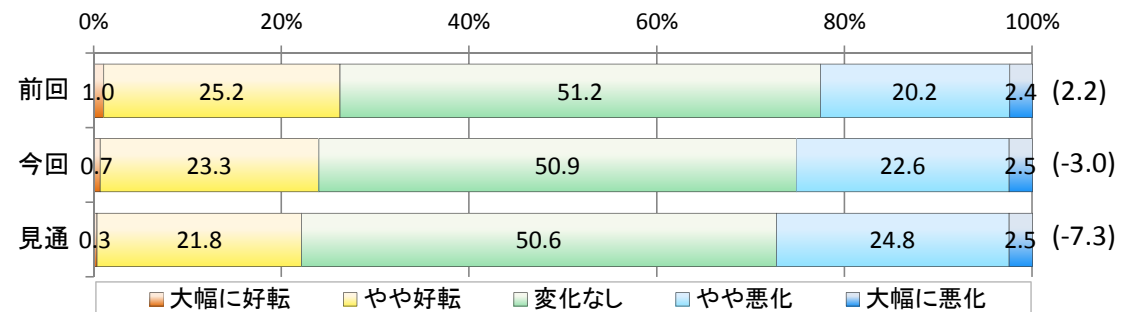
- ・ 前回より3.6ポイント減少した。
- ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■ 経常損益



- ・ 前回より4.7ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準を僅かに下げる見込み。

■ 業界の景況感



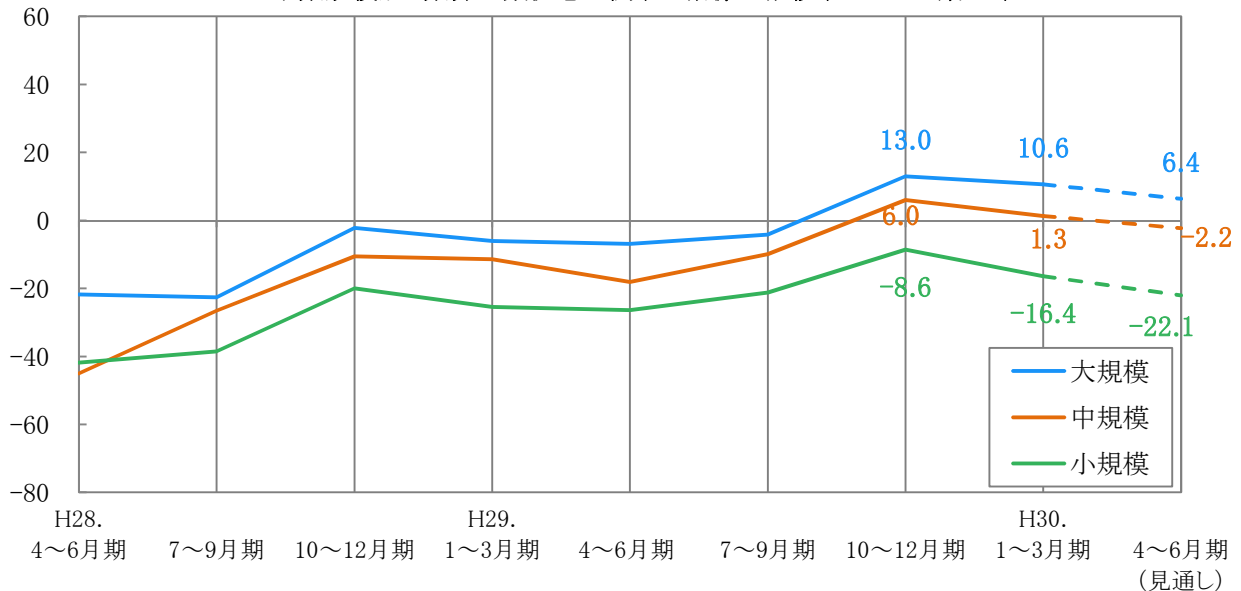
- ・ 前回より5.2ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準を僅かに下げる見込み。

6. 事業者特性別の特徴

① 規模 (注5)

- ・大規模事業者：10.6（前回13.0）と、2.4ポイント悪化、今後は6.4と4.2ポイント下げる見通し。
- ・中規模事業者：1.3（前回6.0）と4.7ポイント悪化、今後は▲2.2と3.5ポイント下げる見通し。
- ・小規模事業者：▲16.4（前回▲8.6）と7.8ポイント悪化、今後は▲22.1と5.7ポイント下げる見通し。

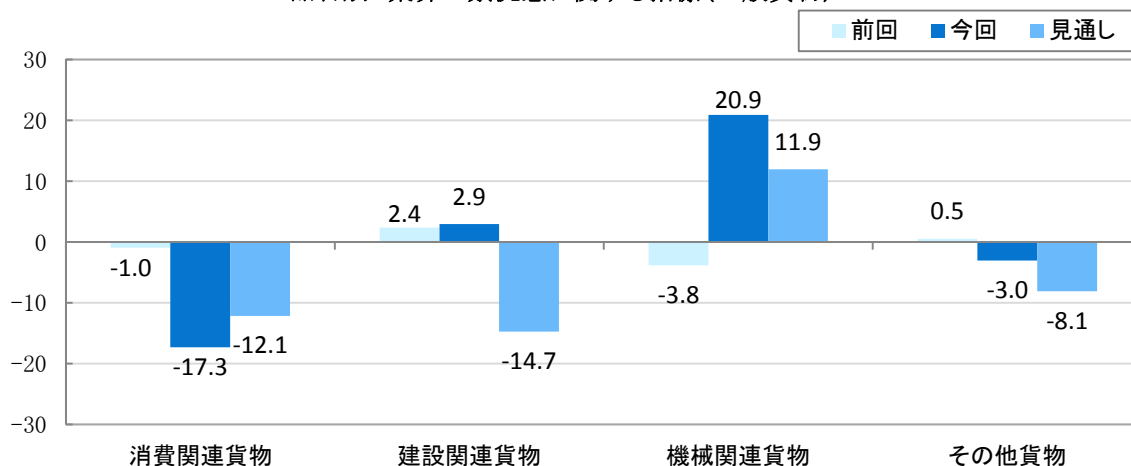
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移(H28.4～6期より)



② 品目 (注6)

- ・「消費関連貨物」：▲17.3（前回▲1.0）と16.3ポイント悪化、今後は▲12.1と5.2ポイント上げる見通し。
- ・「建設関連貨物」：2.9（前回2.4）と0.5ポイント改善、今後は▲14.7と17.6ポイント下げる見通し。
- ・「機械関連貨物」：20.9（前回▲3.8）と24.7ポイント改善、今後は11.9と9.0ポイント下げる見通し。
- ・「その他貨物」：▲3.0（前回0.5）と3.5ポイント悪化、今後は▲8.1と5.1ポイント下げる見通し。

品目別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

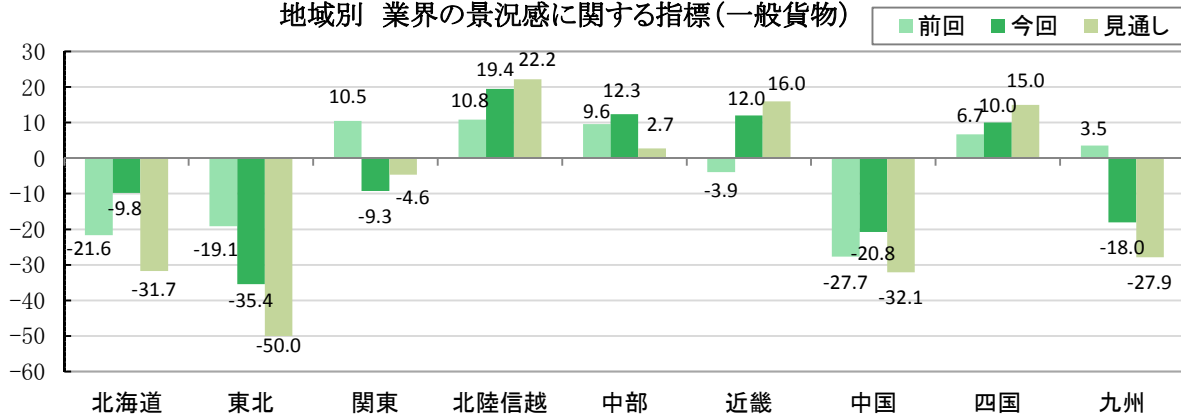
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

③ 地域 (注7)

- ・一般貨物について景況感を地域別にみると、北海道、北陸信越、中部、近畿、中国、四国は水準を上げているが、東北、関東、九州は水準を下げている。
- ・来期（平成30年4月～6月期）の景況感は、関東、北陸信越、近畿、四国は水準を上げ、北海道、東北、中部、中国、九州は水準を下げる見込みである。

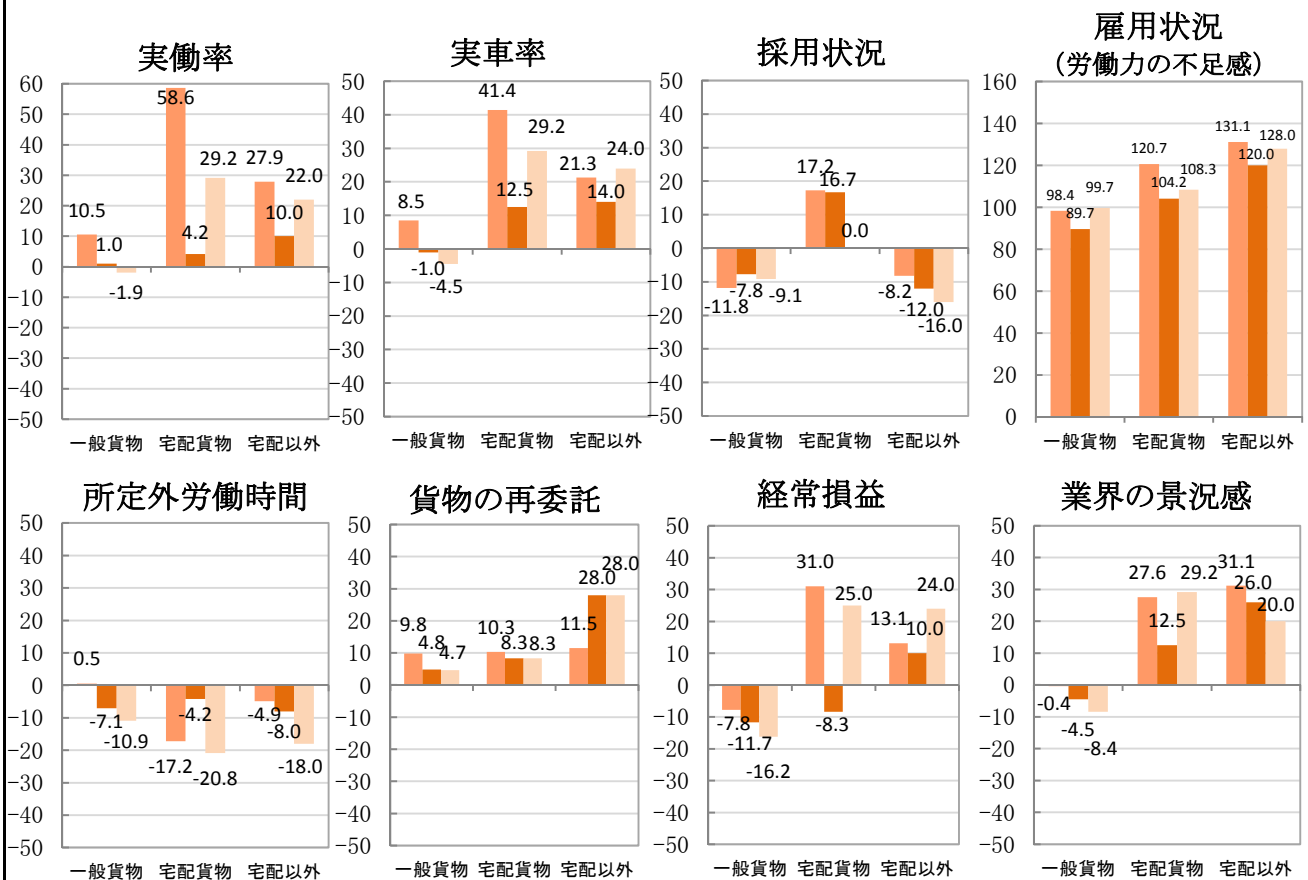
地域別 業界の景況感に関する指標 (一般貨物)



④ 事業形態別 (注8)

- ・「一般貨物」、「宅配貨物」、「宅配以外貨物」の全てにおいて、労働力の不足感は弱まったものの、実働率及び実車率（輸送効率）が悪化したことから経常損益及び景況感は悪化した。今後（平成30年4月～6月期）は労働力の不足感が強まるなかで、一般貨物の実働率及び実車率（輸送効率）は悪化することから、一般貨物の経常損益は悪化する見込みである。
- ・今回の景況感は、「一般貨物」、「宅配」、「宅配以外」の全てにおいて悪化した。今後の景況感は、「一般貨物」は▲8.4（今回▲4.5）、「宅配以外貨物」は20.0（今回26.0）と水準をやや下げ、「宅配貨物」は29.2（今回12.5）と水準を上げる見込みである。

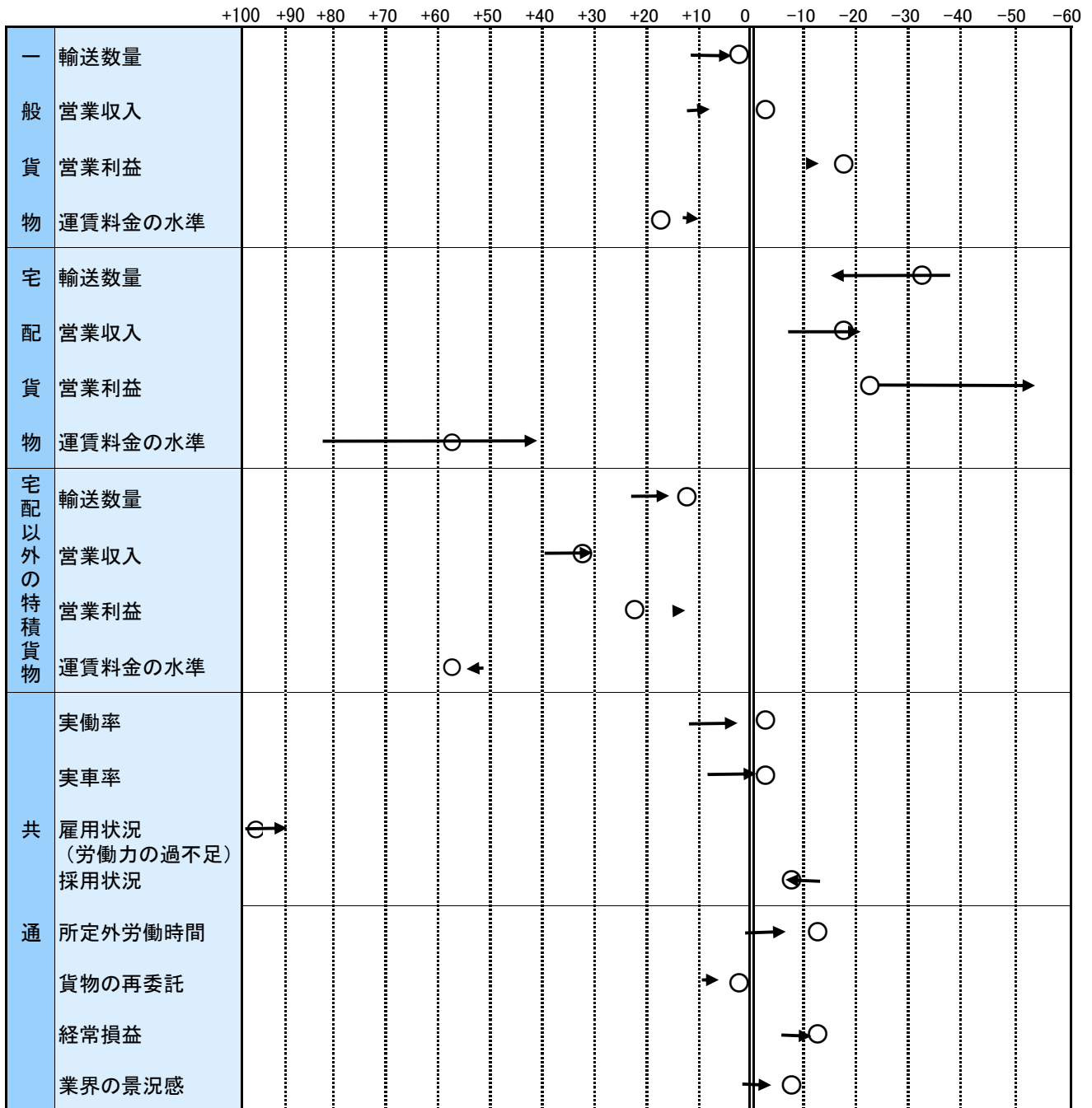
前回 今回 見通し



(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

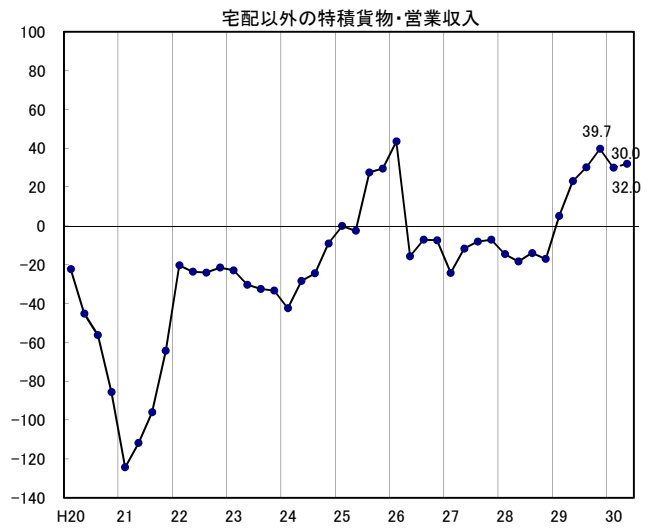
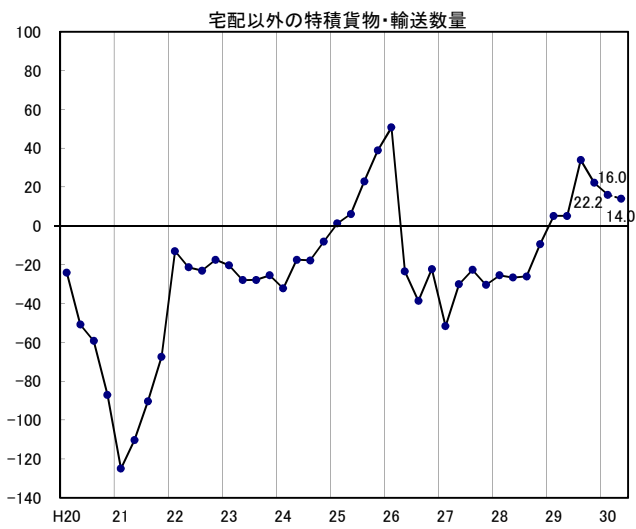
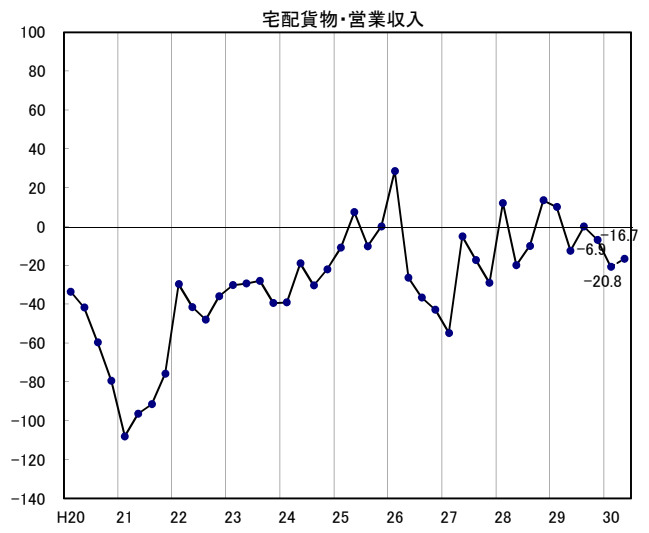
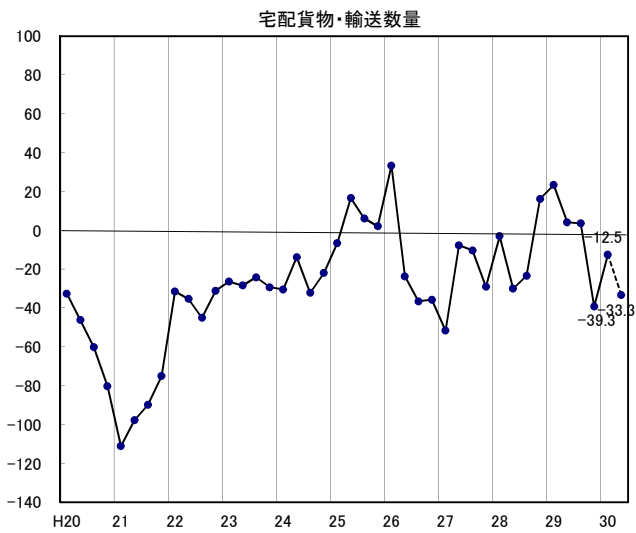
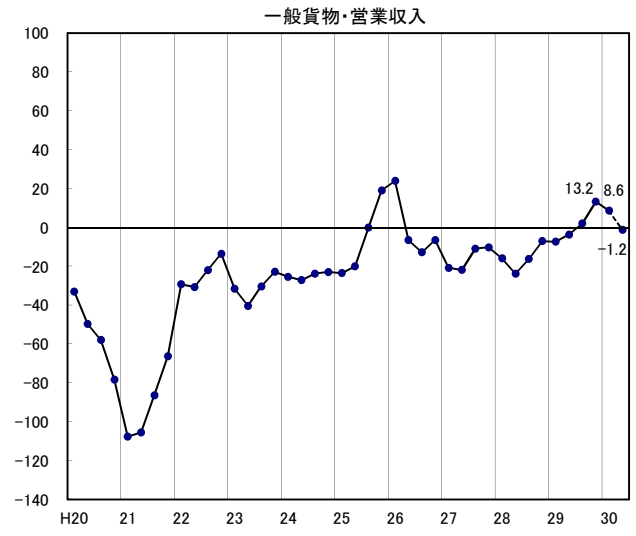
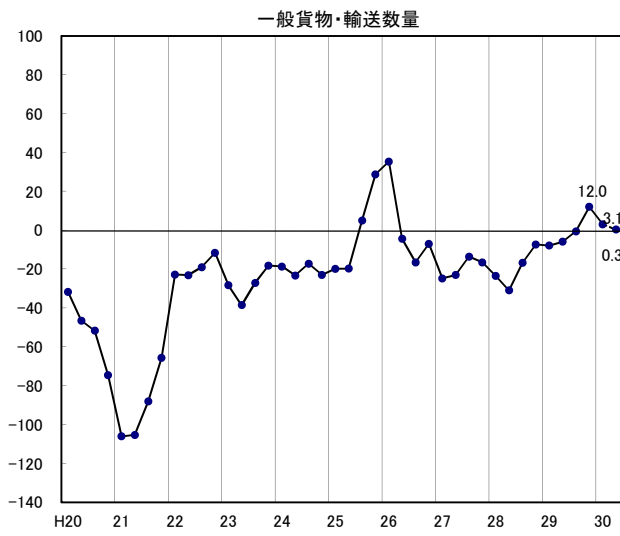
7. 業況判断指標の前回調査（平成29年10月～12月期）からの変化



凡例
 矢元：10-12月期の実績
 矢先：1-3月期の実績
 白丸：4-6月期の見通し

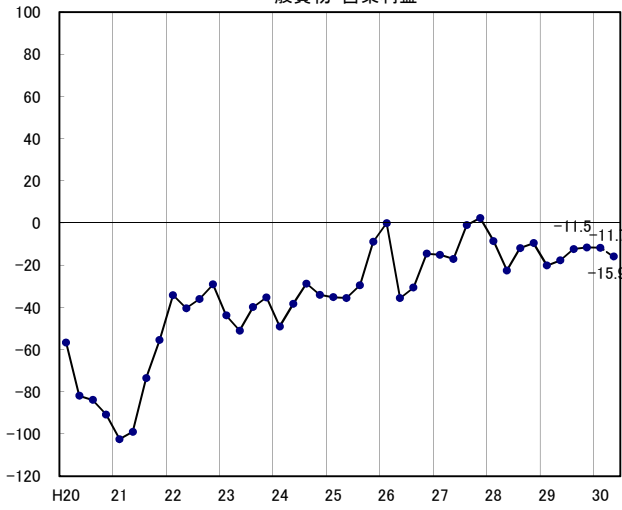
8. 業況判断指標の推移

平成20年～平成30年第2四半期見通し

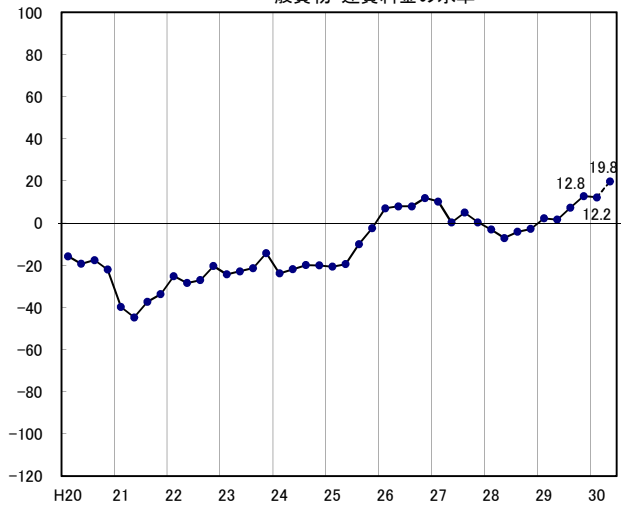


平成20年～平成30年第2四半期見通し

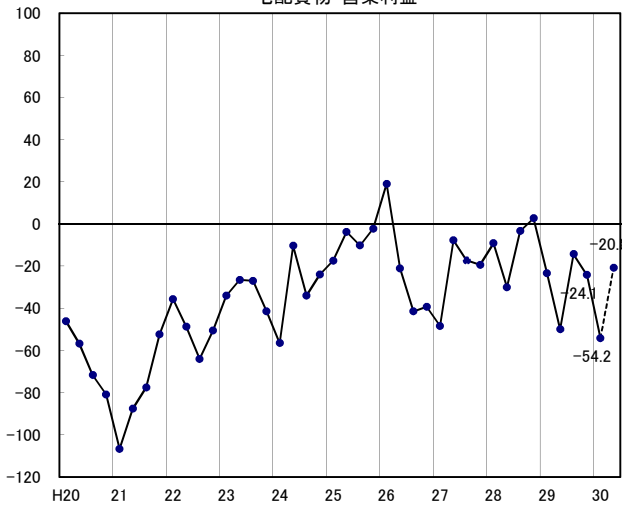
一般貨物・営業利益



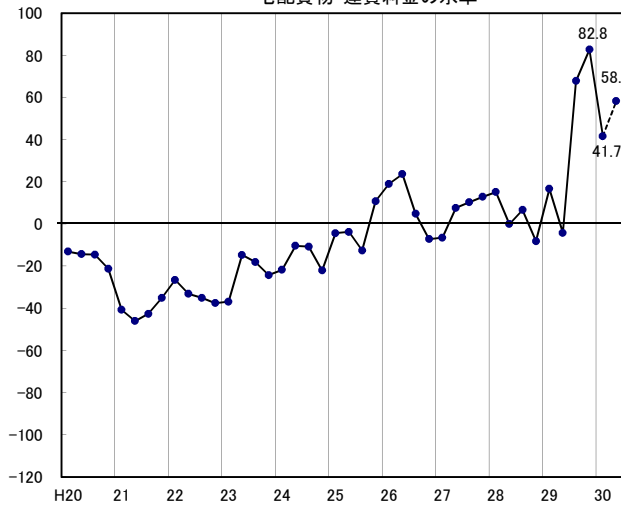
一般貨物・運賃料金の水準



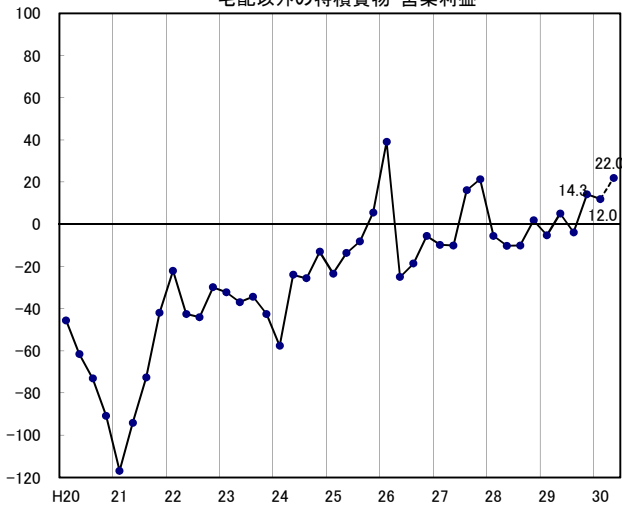
宅配貨物・営業利益



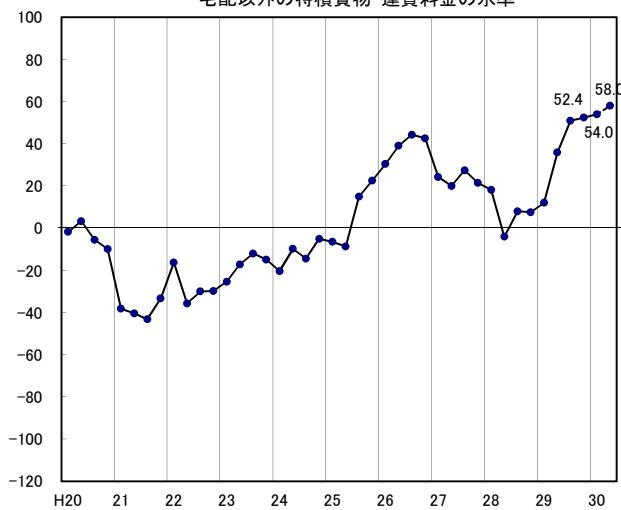
宅配貨物・運賃料金の水準



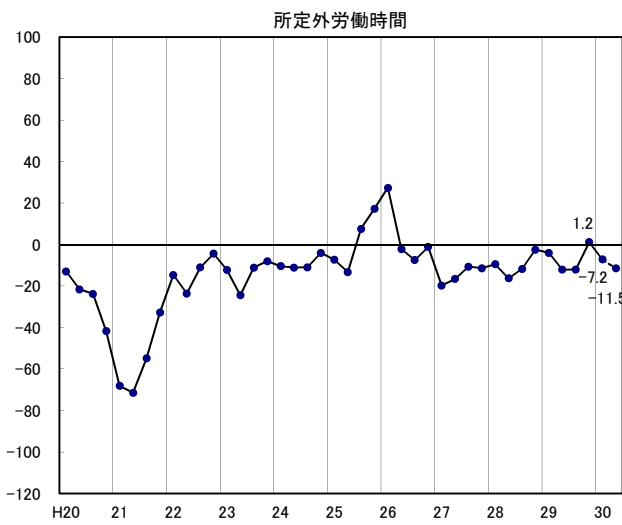
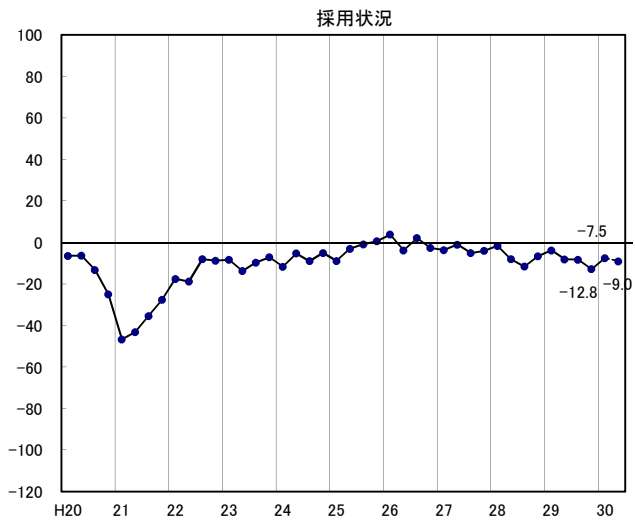
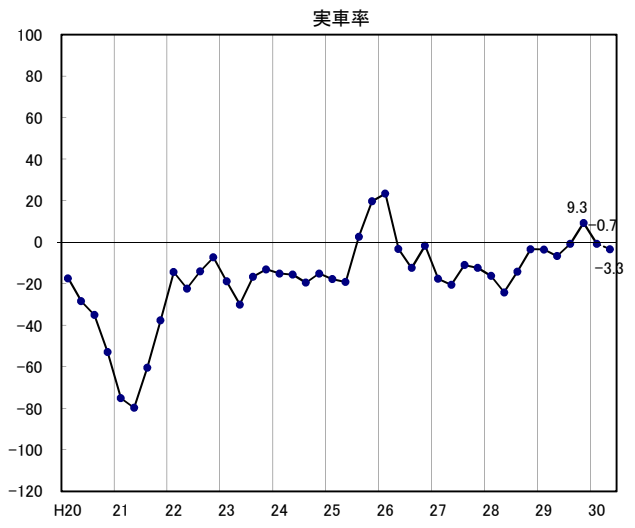
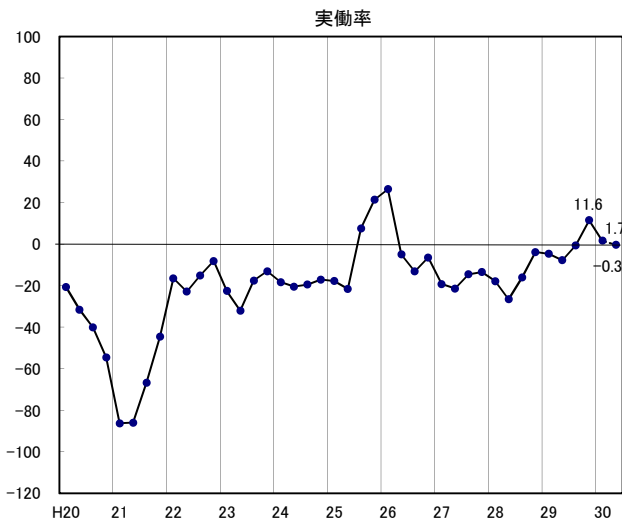
宅配以外の特積貨物・営業利益



宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準

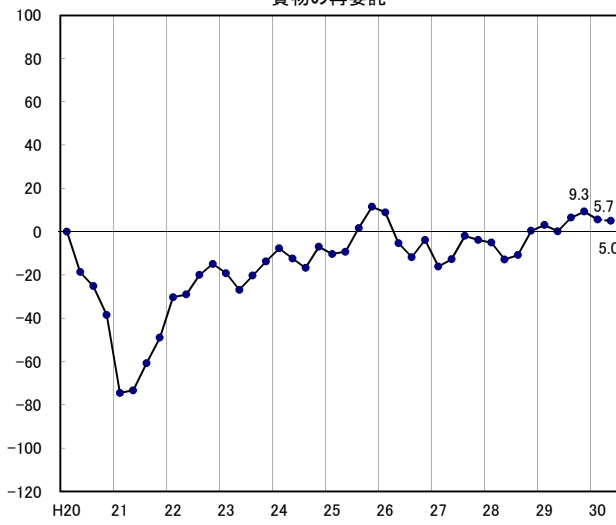


平成20年～平成30年第2四半期見通し

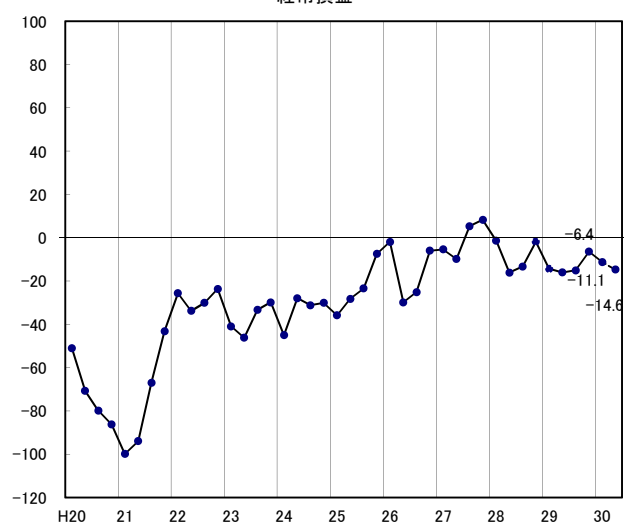


平成20年～平成30年第2四半期見通し

貨物の再委託



経常損益



業界の景況感

